

# HEPATOLOGY NEWS

## 肝胆膵病態内科学ニュース

第19号 2022年12月 発行

### 巻頭言



2022年2月24日、ロシア連邦はウクライナへの軍事侵攻を開始しました。軍事侵攻は10月現在も続いており、ロシア・ウクライナのみならず世界中に不安が広がっています。新型コロナウイルス感染症も3年目になる本年7月に起こった

第7波では、8月に日本全国で過去最多の26万人の感染者が発生しました。現在、世界では「With コロナ」、いわゆる日常生活と新型コロナ感染拡大防止の両立が求められています。医局でもWebと対面を使い分けて日常業務を遂行しております。皆様におかれましては、不安な日々の中ではありますがコロナ感染対策と日常診療を並行して継続されている事と拝察いたします。

2022年4月に大阪市立大学と大阪府立大学の2大学は統合され、大阪公立大学として新たなスタートを切りました。大阪公立大学の学生数は16,000人となり、公立大学としては日本最大、国公立大学としては大阪大学、東京大学に続く第3位の規模になりました。教育、研究、地域貢献の3機能をより強化し、世界に展開する高度研究型大学を目指しています。我々も、世界に向けてより質の高い研究の成果を発信し続けたいと考えています。

当科主催のイベントとしては、2022年9月8日・9日の2日間にわたり大阪市のグランキューブ大阪(大阪国際会議場)にて第29回日本門脈圧亢進症学会総会を無事開催することが出来ました。新型コロナウイルス感染症の現況を鑑み、現地とWebのハイブリッド開催としましたが現地参加者230名、Web参加者170名と多くの先生にご参加頂きました。会場

でもいたる所で白熱した議論がみられ、大いに盛り上がったと思います。ご尽力いただきました先生方には改めて御礼申し上げます。

それでは、2022年度の肝胆膵内科の医局活動をお楽しみ下さい。末筆となりましたが、先生方のますますのご健勝を祈念いたします。

(河田 則文)



### Contents

巻頭言	1
イベント開催報告	2
学会開催報告	2
着任挨拶	3
新入医局員紹介	3
スタッフ紹介	3,4
カンサーボード	5
腹部超音波検査講習会	5
2021年度 Medical Cafe受賞者メッセージ	6
肝胆膵内科トピックス	7
医局HPとFacebook、YouTubeのご紹介	7
大阪公立大学医学部附属病院 肝胆膵内科 外来表	8
編集後記	8

## イベント開催報告 肝臓病市民公開講座

2022年9月19日(祝) 14:30~あべのハルカス25階会議室において、肝臓病市民公開講座を開催いたしました。当科では2015年より7月28日の世界肝炎デー(日本肝炎デー)の時期に同様のイベントを行ってきたものの、コロナ禍になってから対面での開催が出来ずにおりました。この間リモートでの開催は続けてきて、かえって多くの方にご参加いただけたり、好きな時間に何度でも視聴できるなど好評の声もいただいていた半面、対面開催の再開を望む声もありました。今回は約3年ぶりに対面開催を実現するため新型コロナの流行の波を予測し、あえて肝炎デーの時期を外して9月に行ったことはヒットでした。ただ当日は「観測史上最大級の」台風14号の接近により夕方から在来線が運休を決め、恒例の質問コーナー『「のり」とおしゃべりしよう』を中止するなど、予定のプログラムの短縮を余儀なくされました。

講演は各15分、榎本より「ウイルスと肝炎：B型、C型、コロナなど」、藤井英樹先生より「脂肪肝にご用心!~アルコールと脂肪肝の深い関係~」、打田佐和子先生より「もっと知ろう!肝がん」と題してお話させていただきました。「密」を避けるため約200名のキャパシティに対し100名で切りましたが、当日荒天に関わらず54名が参加していただきました。そのうち「初めての参加」が63%、今後も「対面開催を望む」方が83%を占めました。理解度に関しては「すごく分かりやすかった」と「分かりやすかった」合わせて74~85%でした。

久しぶりに対面で行えたことは意義深かったのですが、台風で時間を短縮せざるを得なかったことは大変残念で、事前にいただいた質問にはホームページでお答えするのみならず、動画で講演を視聴していただけるようにもいたしました。ポストコロナではリアルとバーチャルを上手く融合させることが求められるのだと思います。最後になりましたが、準備段階から大変お世話になった患者支援課の大槻周平様、11西病棟の宮本智子師長はじめスタッフの皆様に深謝申し上げます。(榎本 大)



## 学会開催報告 第29回日本門脈圧亢進症学会総会

第29回日本門脈圧亢進症学会総会は2022年9月8~9日に河田則文教授が会長を務められ、グランキューブ大阪(大阪国際会議場)で開催されました。

日本門脈圧亢進症学会は、門脈圧亢進症および食道胃静脈瘤に関する研究ならびに治療法の発展を図ることを目的として1994年に設立されました。総会は、年1回開催されている定例学術集会であり、付置研究会として肝不全研究会、脾臓研究会、BRTO・TIPS研究会が同時に開催されます。

本邦においては、依然として肝臓疾患の罹患率が高く、多くの医師・研究者により消化器・肝臓病学および門脈学に関する基礎的及び臨床的研究が現在も続けられており、その成果は国際的にも高い評価を得ています。消化器・肝臓病学および門脈学の研究・診療に携わる日本全国の内科医・外科医・放射線科医・病理医が一堂に会し、様々な観点から門脈圧亢進症に関する高度な研究発表と活発な討論が行われる本学会は、世界に類をみない門脈に特化した非常に注目されている学会です。

第29回日本門脈圧亢進症学会総会では、メインテーマを「門脈圧亢進症の“New Normal”」と銘打ちました。本学会の魅力である、内科、外科、放射線科、病理のクロストークを重要視して、大きく変貌する門脈圧亢進症診療に関して、病態生理・診断の最新研究から薬物、内視鏡、IVR、手術に至る治療法までを広く発表・討論できるようにシンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップなど数多くの主題を企画させていただきました。また、海外のエキスパート4名による講演も企画しました。さらに、学会前日には、スペイン・スイスの著名な研究者3名をお迎えし、大阪公立大学大学院医学研究科主催のOsaka Metropolitan University International Liver Forum(肝臓病の最新情報:基礎から臨床まで)も開催し、世界の肝臓病学の動向や最先端の研究内容についての報告と意見交換を行いました。



新型コロナウイルス感染症の現況を鑑み、現地とWebのハイブリッド開催となりましたが、400名を超える参加がありました。3年ぶりの現地開催が叶い、“New Normal”の学会運営が行えました。運営に際しましては同窓会の先生方に多大なご協力を賜りましたことを、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

(打田 佐和子)

## // 着任挨拶

前期研究医

岡田 真穂

(おかだ まほ)

昨年、和泉市立総合医療センターでの勤務を経て、今年度大阪公立大学医学部附属病院の肝胆膵内科前期研究医に着任しました、岡田真穂と申します。肝胆膵内科領域を主とした専門医を目指し、消化器内科一般の診療知識・技術を身につけるべく日々精進しております。一人ひとりの患者さんに寄り添い、全人的な医療を提供していきたいと考えておりますが、まだまだ至らぬ点も多く、他の先生方の診療に日々触れて学ばせていただいております。引き続きご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

## // 新入医局員紹介

前期研究医

白井 杏紀

(しらい かずき)

2022年度新入局員の白井杏紀と申します。

同大学病院での研修を経て、エコーや経皮的処置もありつつ、病態を踏まえた方針を考えられるバランスの良い診療科と感じ、入局させていただき運びとなりました。

至らない点も多く勉強の日々ではありますが精進して参りますので、宜しくお願い申し上げます。

## // スタッフ紹介

大学院生

Nguyen Van Khanh

(グエン ヴァン カーン)



Greetings, my name is Nguyen Van Khanh. I'm 39 years old. I graduated from Hue University of Medicine and Pharmacy in 2008 and my major is a general practitioner.

I spent 2 years studying to become a master of anatomical pathologist at Hanoi Medical University. After finishing my master's course, I worked for Quang Nam Center general hospital for 7 years and I have been working for VinMec Healthcare System since 2017.

I appreciate the opportunity to come here and study. I'm looking forward to working together and increasing my knowledge under your leadership.

Thank you very much.

大学院生

## Nguyen Thi Ha

(グエン ティ ハ)



Hello. My name is Nguyen Thi Ha. I am 28 years old and I come from Vietnam. I had completed the 6-year-course as a general practitioner student at Hanoi Medical University from 2012 to 2018. After that, I pursued the resident doctor program in Microbiology Department at the same university during a 3-year-period. At the end of 2021, I started working as a microbiologist at Hanoi Lung Hospital and responsible for testing tuberculosis patient's sample.

It's a pleasure and honor for me to study at the Department of Hepatology in Osaka Metropolitan University. In one of the most prestigious universities in Japan, receiving guidance from Professor Kawada Norifumi and Dr. Le Thi Thanh Thuy, the pioneers in the field of hepatology, I will take advantage of this precious opportunity to get some deep insight into molecular biology and genomics that I'm really interested in. I'm looking forward to study under your gentle care and supervision. Thank you very much.

大学院生

## Nguyen Tran Quang Sang

(グエン チャン クアン サン)



Good morning/afternoon

My name is Nguyen Tran Quang Sang. I'm 38 years old. I graduated from HaNoi Medical University in 2009 and my major is a general practitioner.

In 2014, I spent 2 years studying to become a master of medicine at Hanoi Medical University.

I got the degree of Second-Degree Specialist - Surgery, in 2022. I have been working for VinMec Healthcare System since 2021.

I have studied in Japan before. From that, I have learned a lot of knowledge that has helped with my career.

I appreciate the opportunity to come here and study. I'm looking forward to working under everyone's care and guidance.

Thank you very much.

## // キャンサーボード

キャンサーボードを、毎週金曜日17時より放射線科読影室にて開催しておりますが、若干の様態替えをしたのでお知らせいたします。2021年度までは、水曜日に胆膵、金曜日に肝臓と週2回に分けて行っていました。働き方改革の推進が提唱される現在、労働時間外に集まる時間を減らそうとの提案があり、金曜日に集約しました。肝胆膵外科、肝胆膵内科、放射線科、放射線治療科、消化器内科（内視鏡部）が、診断困難例や難治症例を持ち寄って相談しております。癌を効果的に治療するためには、手術、局所治療、経カテーテル的治療、薬物治療、放射線治療などを組み合わせ、科の垣根を越えて集学的に行うことが必要です。その手助けとなる場を提供できればと思っております。気軽に症例を提示いただけたら幸いです。

（萩原 淳司）

## // もっと進むよ！腹部超音波検査講習会！

昨年は腹部超音波検査講習会とDX（デジタルトランスフォーメーション）について報告し、あっという間に1年が過ぎました。

この一年の活動としては2022年6月（@南大阪病院）で遠隔での講習会を行い、講習会や医学生への学修効果を学会報告させていただき、本校の手技サークルでも講習会をする機会をいただきました。まず講習会ですが、打田佐和子先生を中心に事前学習動画を作成していただき充実した講習会を行えています。（興味のある方は肝胆膵内科HPもしくは下記QRコードを参照ください。いいね！をお願いします。）また研修医だけでなくM5医学生へ毎週腹部超音波講習会を行っており第52回日本医学教育学会大会（@群馬）で「腹部超音波手技遠隔トレーニングによるスキルアップの試み」を報告してきました。内容は遠隔および対面でテスト画面を講習会前後の走査力を評価しました。使用したテストツール（26点満点）は経験者で23±3.9の難易度です。初学者の指導前/後の点数は遠隔12±5/22±3、対面12±5/20±4であり、講習後の走査力は遠隔と対面で有意差はなく（ $p=0.266$ ）対面と遜色ない講習が行えました。（元山宏行 第52回日本医学教育学会大会；1P-303）また「コロナ禍がもたらした腹部超音波実習の変化と学修効果への影響」（2P-O34）を打田先生が同学会で報告されました。最後に手技サークルでの講習会です。学生有志のサークルでコロナ禍のため、かなり活動やメンバーが減ったようですが様々な学年が在籍しており徐々に活動を増やすべく奮闘していました。そんな勉学に燃える後輩のお手伝いができこちらも刺激をいただきました。

今後についてですが従来の講習会は継続しますが、皆さんのお手元にHepatology Newsが届くころには新たな腹部超音波検査イベントを行っています。名付けて『ソナリンピック』、詳細は肝胆膵内科HPやFacebook等で報告させていただいているのでご覧ください。より腹部超音波検査、肝胆膵内科に興味をもつていただくためにもっと進むよ！腹部超音波検査講習会！

最後になりましたが、遠隔でも腹部超音波検査を行えるシステムの構築をすることができたので今後も教育に医療に役立てていきたいと思っております。また研修医が来られている関連病院の先生方でご興味のある方は遠隔腹部超音波検査出張を行いますのでご連絡ください。

（元山 宏行）



YouTube チャンネル  
OMUH-Hepatology



【基本編】  
腹部エコースクリーニング

## 2021年度 Medical Cafe 受賞者メッセージ

### 河田賞受賞

肝胆膵内科の小田桐直志と申します。この度は2021年度「Medical Café」において、名誉ある河田賞を受賞し、大変光栄に思っております。

コロナ流行の収まらない中、ZOOMで開催された2021年度 Medical Caféでも、例年どおり各先生方の発表は趣向を凝らした内容の濃いものばかりで、興味深く拝聴させて頂きました。まさか、自分の発表が河田賞に選ばれるとは思っていませんでしたので、大きな驚きとともに、河田先生から激励の言葉も頂き、身に染みたことを記憶しております。

Medical Caféでは、進行肝細胞癌に対するアテゾリズマブ・ベバシズマブ治療の当院における臨床成績について発表させて頂きました。近年は肝細胞癌に対する化学療法が劇的な進歩を遂げており、薬剤の選択肢も大幅に増えてきています。さらに、アテゾリズマブ・ベバシズマブのような免疫療法の登場により、肝細胞癌患者の予後は着実に改善されつつあります。こうした治療の進歩を肌で感じつつ、自分自身の診療する患者様に対してその治療を提供できるのは非常に喜ばしく、やりがいのあることだと痛感しております。引き続き、実臨床のデータを軸に何か新しい情報を発信していけたらと考えております。

本賞を励みに、今後も積極的に精進して参りたいと思っておりますので、引き続き御指導よろしくお願い申し上げます。

(小田桐 直志)



### 河田賞受賞



この度は2022年3月に行われたMedical caféにて河田賞という素晴らしい賞をいただき、ありがとうございます。2017年に開催された第1回Medical caféで私は研究内容を通じて、世界の壁を超える目標(夢)を語りました。大学院に進学して初めてピペットマンを持ち、研究に没頭するうちに、気がつけば目標(夢)を持っていました。始めは、日々の挫折で諦めてしまいそうな小さな目標(夢)でした。しかし、挫けそうになる度に松原三佐子先生はじめ多くの先生方に支えていただきました。一人では決して立ち向かうことも出来ない困難にも打ち勝ち、2020年に世界の壁を超える目標(夢)を達成することができました。この時、2018年AASLDに学会参加した際、私が食べたフォーチュンクッキーに『いい知らせがくる』と書かれており、隣にいたPINZANI先生が『それは君の論文のことだ』と仰っていた言葉を思い出しました。2022年、私にとって最後となるMedical caféでの発表後、河田先生からネルソン・マンデラの名言『成功者とは、諦めることを知らない夢追い人のこと』を引用して私を表す暖かい御言葉をいただきました。この言葉を胸に刻み、西洋・東洋医学を越境できる多様性を兼ねそろえた医療人・研究者を目標(夢)にこれからも日々、挑戦していきます。

(翁 良徳)

## // 肝胆膵内科トピックス ～What's New?～

胆管がんは診断時、既に進行していることが多く、予後不良な疾患です（5年生存2割以下）。化学物質への曝露が一因とされ、近年、増加傾向と報告されています。我々は、本学の附属病院および医学研究科において検診から基礎研究まで、この疾患に取り組んでおります。少し紹介させていただきます。

2013年以来、我々は胆管がん特別外来検診を外科と共同で行なってきました。当初、大阪市の特定の印刷会社の従業員が対象でした（61名）。現在、印刷業などに従事し健康管理手帳を有するハイリスク者に絞っています（2022年、23名）。本検診により、これまで胆管がん4例が拾上げられました。2015年以降、我々は外部資金を活用し、基礎的な研究を行なっております。臨床検体を網羅的に調べ、ヒト胆管がん細胞の成長を抑える遺伝子が見出された為、我々は情報発信を続けております。2021年、我々は切除不能例において27件の化学療法を行いました。多くは、ゲムシタピンを含むレジメンです。ご存知の様に、これは古い治験（2010年のNEJM誌）に基づく標準治療であり生存成績が不十分です。しかし、日本人が参加した免疫療法の治験で生存成績の改善が報告されました（2022年9月、デュルバルマブが米国で承認）。死亡リスクが現行から2割下がります。

新薬が国内承認されれば、制御できる日が近づくでしょう。

（川村 悦史）

## // 医局 HP と Facebook、YouTube のご紹介

肝胆膵内科では医局 HP や SNS (Facebook がメインです) に医局の行事やイベント情報などの情報を、定期的にアップしております。最近、打田先生が中心となり、腹部超音波の動画をまとめて Youtube チャンネルに公開しておりますので、合わせてご覧ください！先生方のご施設の若手の先生にもご紹介下さいませ。



医局 HP

<http://www.med.osaka-cuac.jp/liver/>



医局 Facebook

<https://www.facebook.com/omum.hepatology>



YouTube チャンネル

OMUH-Hepatology

<https://www.youtube.com/channel/UC90UjP6ooqJ4DIPlz6KErw>

## 大阪公立大学医学部附属病院 肝胆膵内科 外来表

	月	火	水	木	金
5 診	榎本 大	藤井 英樹	河田 則文	榎本 大	萩原 淳司
6 診	川村 悦史	萩原 淳司	打田 佐和子	藤井 英樹	西口 修平
7 診	元山 宏行	小田桐直志	川村 悦史	小塚 立蔵	元山 宏行
8 診	小谷 晃平	武藤 芳美	小谷 晃平	小田桐直志	武藤 芳美

大阪公立大学医学部附属病院 肝胆膵内科 ☎(06)6645-2121(代表)  
 初診受付：午前9時～午前10時30分 休診日：土日祝日、年末年始  
 肝胆膵内科では紹介状持参の上、初診受付時間内にお越しただけたら当日、診察いたします。

大阪公立大学医学部附属病院 MedCity21 ☎(06)6624-1324  
 【完全予約制】電話受付時間：月～金 午前9時～午後4時30分

## 編集後記

皆様、Hepatology News を読んで頂き有難うございました。コロナ禍も3年目に入り、宴会やカラオケが無いのが普通の社会になりました。当初はそんな世の中で生きていけるか、ちょっと心配でしたが、意外に普通でした。これがニュー・ノーマルなのでしょうね。くれぐれもお体ご自愛ください。

(藤井 英樹)

### HEPATOLOGY NEWS

肝胆膵病態内科学ニュース

第19号 2022年12月 発行



発行者 / 大阪公立大学大学院医学研究科  
 肝胆膵病態内科学  
 〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3  
 TEL: 06-6645-3905 FAX: 06-6635-0915

編集委員 / 藤井 英樹